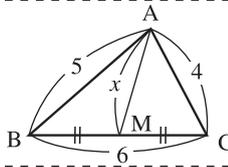


三角形の中線の求め方

三角形の頂点から各辺の内分点に引いた線分の長さを求める方法はいくつかあるが、どの方法がよいか迷うところである。今回は中線の長さを例にとり、その長さを求める方法を考えてみたい。

【例題】右の三角形 ABC

において、中線 AM の長さ x を求めよ。



解法 1 中線定理を利用して

三角形の中線定理より

$$AB^2 + AC^2 = 2(AM^2 + BM^2)$$

$$5^2 + 4^2 = 2(x^2 + 3^2) \text{ より}$$

$$x^2 = \frac{23}{2} \quad \therefore x = \frac{\sqrt{46}}{2}$$

解法 2 三平方の定理を利用して

A から底辺 BC に垂線 AH

を引く。MH = y とすると

$\triangle ABH$, $\triangle ACH$, $\triangle AMH$

は直角三角形だから、

三平方の定理より

$$5^2 = AH^2 + (3+y)^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$4^2 = AH^2 + (3-y)^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

$$x^2 = AH^2 + y^2 \quad \dots \textcircled{3}$$

① - ②より

$$9 = 12y \quad \therefore y = \frac{3}{4}$$

②に代入して

$$16 = AH^2 + \left(3 - \frac{3}{4}\right)^2 \text{ より } AH^2 = \frac{175}{16}$$

③に代入して

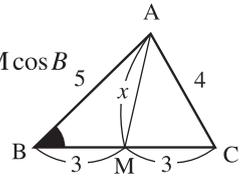
$$x^2 = \frac{175}{16} + \left(\frac{3}{4}\right)^2 = \frac{46}{4} \quad \therefore x = \frac{\sqrt{46}}{2}$$

この解法は、中線定理を導く方法と同じである。

解法 3 余弦定理を利用して (その 1)

$$\cos B = \frac{5^2 + 6^2 - 4^2}{2 \cdot 5 \cdot 6} = \frac{3}{4}$$

$$\begin{aligned} x^2 &= AB^2 + BM^2 - 2AB \cdot BM \cos B \\ &= 5^2 + 3^2 - 2 \cdot 5 \cdot 3 \cdot \frac{3}{4} \\ &= \frac{23}{2} \quad \therefore x = \frac{\sqrt{46}}{2} \end{aligned}$$



解法 4 余弦定理を利用して (その 2)

$\angle AMB = \theta$ とすると

$\triangle ABM$ と $\triangle ACM$ に

余弦定理を適用して

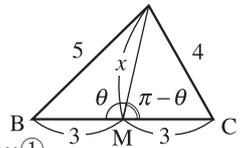
$$5^2 = 3^2 + x^2 - 2 \cdot 3 \cdot x \cos \theta \quad \dots \textcircled{1}$$

$$4^2 = 3^2 + x^2 - 2 \cdot 3 \cdot x \cos(\pi - \theta) \quad \dots \textcircled{2}$$

$\cos(\pi - \theta) = -\cos \theta$ だから

① + ②より

$$2x^2 = 23 \quad \therefore x = \frac{\sqrt{46}}{2}$$



解法 5 ベクトルを利用して

$$\cos A = \frac{4^2 + 5^2 - 6^2}{2 \cdot 4 \cdot 5} = \frac{1}{8}$$

$$\vec{AM} = \frac{1}{2}(\vec{AB} + \vec{AC})$$

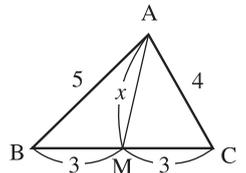
$$|\vec{AM}|^2 = \frac{1}{4}|\vec{AB} + \vec{AC}|^2$$

$$= \frac{1}{4}(|\vec{AB}|^2 + 2\vec{AB} \cdot \vec{AC} + |\vec{AC}|^2)$$

$$= \frac{1}{4}(5^2 + 2 \cdot 5 \cdot 4 \cdot \frac{1}{8} + 4^2)$$

$$= \frac{23}{2}$$

$$\therefore |\vec{AM}| = x = \frac{\sqrt{46}}{2}$$



これらの解法から、中線を求めるだけなら中線定理を利用する方がよい。しかし、応用範囲を考えると、どの場合にどの解法がよいかはそう簡単にはいえない。大切なことは、実際に生徒に解かせ、それぞれのよさを実感させることであり、それが後々実力に結びつくのだと思う。